

平成7年1月30日
平成9年3月1日改定
平成13年12月1日改定
平成21年7月1日改定
平成28年6月2日改定

会員各位

荒川区卓球連盟会長 北城貞治

荒川区定期団体戦規定

荒川区卓球連盟の主催または主管する定期団体戦は以下の規定に基づいて行われるものとします。各大会においてこの規定と異なる内容で実施するときにはその大会の要項(案内)か開会式でその説明があります。説明があった部分についてはその大会では説明の通りに実施されます。説明のなかった部分についてはこの規定によるものとします。

本規定を準用するときには必要な範囲で合理的な読み替えを行うことがあります。必要な範囲や合理性の判断は審判長が行います。

また、審判長は参加者の技量や大会の趣旨等を考慮し、個々の事案ごとにすべての判断を最終的に行います。

1. 団体戦への申し込み

申し込み時に1チームについて荒川区卓球連盟に登録してある選手4～7名の申し込みをすることとします。8名以上の出場予定の団体は2チーム以上の申し込みをすることになります。

2チーム以上の申し込みをする団体は最強と思われるチームを「A」、以下強いと思われる順に「B」、「C」……というようにチーム名の末尾にA, B, C……を付けて申し込みをします。

同一の選手を2つ以上のチームに申し込むことは同一団体のときも含めてできません。男子の団体戦に女子が出場することはさしつかえありませんが男子のチームに申し込むことは必要です。荒川区卓球連盟に登録してある他の団体や個人から1名に限ってチーム内に含めて申し込む事ができます。

2. 当日の選手の変更について

1チームの申し込みをした団体は当日必要があれば選手の変更・追加ができます。変更・追加によって新たにそのチームに参加する選手は当日参加する他のチームに属していないこととします。当日、人数不足などで最初から棄権するチームの選手が変更・追加により他チームの選手として試合に参加することは可能です。ただし、そのチームが申し込みの要件を満たしていることは必要です。

2チーム以上を申し込みした団体はその団体のなかで下位チームの選手を上位チームに変更することはできます。最も下位のチーム以外はこれ以外の選手の変更はできません。なお、上位チームに申し込みしてある選手を下位チームへ変更することはできません。最も下位のチームは1チームの申し込みをした団体と同じに選手の変更・追加ができます。

いずれの場合でも各チームの選手の変更・追加は1名限りとします。また、一度変更した選手を再度変更することもできません。

当日に選手の変更・追加のあるチームは開会式までに本部に連絡し、本部の了解を得てください。

3. 団体戦の試合成立の要件

事前に登録された選手のうちで、その団体戦に出場する選手(少なくとも4人)全員が条件を満たしたゼッケンを着用して試合開始前の整列ができる状態のときに、そのチームは団体戦が開始できる状態とします。団体戦が開始できる状態にならないチームはその団体戦を棄権したものとします。

試合中に条件を満たしたゼッケンを着用していない場合、そのチームはその団体戦を棄権したものとします。

なお、団体戦の棄権については総合的な状況を加味し最終的な判断を審判長がするものとします。

4. 棄権の取り扱いについて

ア 団体戦の棄権について

団体戦そのものが棄権になったとき、そのチームは団体戦のスコアを0-3で、すべてのゲーム・すべてのポイントも失った状態で負けたものとします。対戦する双方のチームが棄権となったときには双方のチームとも団体戦のスコアを0-3で、すべてのゲーム・すべてのポイントも失った状態で負けたものとします。

リーグ戦において次の団体戦があるときには、その団体戦開始時に上記3の要件を満たしていればその団体戦は成立し、棄権にはなりません。棄権となった団体戦の前に行われたそのチームの団体戦があるときはその団体戦の成績は有効です。

【例1】朝、最初の団体戦の時に申し込みをした選手のうち3人しかいないチームはその団体戦は棄権になります。その後、申し込みをした選手の1人が来て2回目の団体戦の時に4人になれば2回目の団体戦は棄権にはなりません。

【例2】4人で組んでいるチームの中の1人が2回目の団体戦終了後、急用で欠けてしまい3人になってしまった時、そのチームの2回目までの団体戦の成績は有効です。3回目の団体戦以降は棄権の扱いになります。

イ 個人戦の棄権について

団体戦開始後については各個人戦毎に棄権を考えます。

各個人戦で棄権があったとき、棄権者は棄権した時以降のその個人戦のすべてのゲーム、すべてのポイントを失うものとします。棄権以前にその棄権者がその試合で得たゲームや得点はすべて有効です。

棄権した個人戦以前の個人戦でその選手の得たゲーム・得点はすべて有効であり、棄権した個人戦以降のその選手の個人戦も有効です。

【例1】3番のシングルスにオーダーされた選手が2番の試合を観戦中に気分が悪くなり3番の試合ができない時は3番の試合が棄権となり、0-3(0-11、0-11、0-11)で負けになります。

このチームがもともと4人で組んでいて2番の選手を除くと3人になってしまう状況でもチー

ムがこの団体戦を棄権になることはありません。また、この選手が次の団体戦に出場することはできません。

【例2】1番のダブルスと5番のシングルスにオーダーされた選手が1番のダブルスで第1ゲームを11-4で先取した後、第2ゲームを10-4で勝っていた時に怪我で棄権した時は1番のダブルスは1-3(11-4、10-12、0-11、0-11)で負けになります。

その後4番の試合まで終了し団体戦のスコアが2-2になった時、この選手が試合に出場可能ならば出場しても構いません。棄権の場合は5番の試合を0-3(0-11、0-11、0-11)で失うことになります。

5. オーダーの組み方と試合順

試合はすべて

1番ダブルス 2番シングルス 3番シングルス 4番シングルス 5番シングルス

で行います。

シングルスはすべて異なる選手とします。1番のダブルスは2番の選手と3番の選手で組むことはできません。

原則として1番から順次試合を行ない、どちらかのチームが3つの個人戦を勝利した時点で終了します。

試合の進行上2つ以上の個人戦を同時に行う場合も数多くあります。このときリーグ戦では1番から順次試合が行われたと仮定して、どちらかのチームが3つの個人戦で勝利するまで試合が行われたものとします。

2つ以上の個人戦を同時に行う場合も含めて団体戦の開始後に故意に各個人戦の開始を遅らせることはできません。

なお、3つの個人戦を勝利したチームが勝利チームであり、それ以外は負け(個人戦の棄権などの関係で両チームとも3勝をできないときには両チームとも負け)とします。

オーダーの組み方が間違っていたときには次のようにします。

ア オーダー交換からその団体戦の試合の終了時までの間に気付いたとき

整列時に双方のチームが対戦相手のオーダーを確認したときに間違いに気付くことがあるかと思えます。あるいは試合の途中で気付くことがあるかと思えます。

この場合、1番から順番にオーダーを調べて間違いとなる個人戦のすべてのゲーム・ポイントはオーダーを間違えたチームが失うものとします。そして、この処置はその間違いとなる個人戦が終了していても団体戦が終了していない限り適用されるものとします。

【例1】1番のダブルスに出場した2人の選手が2番と3番に出場してしまったときは3番でオーダーを間違えたと判断します。

この場合には3番の試合開始以前か終了以降かを問わず、そのチームは3番を0-3(0-11、0-11、0-11)で失ったものとします。

【例2】一人の選手が2番と4番にオーダーされた場合は4番が間違いであると判断します。

この場合にはそのチームは4番を0-3(0-11、0-11、0-11)で失ったものとします。

イ その団体戦の試合が終了したあとに気付いたとき

その団体戦のスコアはすべて有効とします。

団体戦は双方のチームが整列、団体戦の試合結果を確認した時に終了するものとします。

順番を間違えてオーダーと異なる選手が出場したときは次のようにします。

ア その団体戦の終了前に気付いたとき

順番を間違えて行った(あるいは行いつつある)個人戦を無効とし、改めて正規の個人戦を行います。

これは、例えば2番と3番の試合を同時に始めたとき、どちらのチームが順番を間違えたか判断のつかない場合などを考慮しての措置です。

イ その団体戦の試合が終了したあとに気付いたとき

その団体戦のスコアはすべて有効とします。

6. リーグ戦内での順位付け

リーグ戦内の順位は次のような順番で考えることとします。

ア 団体戦の勝率の上位のチームを上位とします。対戦相手の棄権なども1勝と数えます。

団体戦を棄権したときも1敗と数えます。(日本卓球ルールにある勝ち点は考慮しません)

イ 上記アが同率のチームがあったときはその同率のチーム間のみの団体戦の勝率の上位のチームを上位とします。

ウ 上記アとイが同率のチームがあったときはその同率のチーム間のみの個人戦の勝率の上位のチームを上位とします。

エ 上記アとイとウが同率のチームがあったときはその同率のチーム間のみのゲームの取得率の上位のチームを上位とします。

オ 上記アとイとウとエが同率のチームがあったときはその同率のチームの間のみの得点率の上位のチームを上位とします。

カ 上記アとイとウとエとオが同率のチームがあったときはその同率のチームの代表者各1名によるくじ引きで順位を決定します。

7. トーナメント戦と決勝戦での試合進行

トーナメント戦と決勝戦においても原則オーダー順に試合が行われますが、全体の試合進行に協力していただくために、本部あるいは審判長からオーダー順と異なる試合順や2つ以上の個人戦を同時並行でお願いする場合があります。

オーダー順にかかわらずどちらかのチームが個人戦を3勝したときは両チームの合意と審判長の了承がある場合を除いては試合終了とし、整列するものとします。継続中の試合・まだ行われていない試合については以降行いません。

スコアは両チームとも試合終了時の個人戦勝利数とします。

なお、5つの個人戦終了時に両チームとも(各個人戦の棄権などの関係で)3勝をできないときは両チームとも負けとします。

【例1】3番までの結果が2-1で4番と5番の個人戦を同時並行しておこない、5番の終了が早く3番までを2-1で勝っているチームが5番の試合を勝利したときは、5番の試合終了をもって整列し、4番の試合は途中で終了となります。なお、この場合の団体戦のスコアは3-1とします。

【例2】1番のダブルスをおこなう前に2番から5番までのシングルスを同時並行でおこなった結果、3番の試合中に2番・4番・5番の試合が終了し一方のチームがそのすべてを勝利した場合はその時点で整列し、3番の試合は途中で終了となります。1番のダブルスは行いません。なお、この場合の団体戦のスコアは3-0とします。

【例3】2-2でむかえた5番の試合出場の2人の選手とも何らかの事情で棄権したときは引き分けでなく、両チームとも(3勝できていないので)負けになります。夕方以降の団体戦に想定される事態ですが、各チームにおいてこのようなことのないように注意喚起するため、ここに例示してあります。

8. 入賞など

各ランク別に上位2チームを優勝、準優勝とし、入賞とします。

各ランク別に上位1チームが次回大会で上位ランクのリーグ戦に出場できるものとします。次回大会のエントリー状況により上位複数チームに上位ランクのリーグ戦に出場していただく場合があります。

各ランク別に下位1チームが次回大会で下位ランクのリーグ戦に出場することになります。次回大会のエントリー状況により下位複数チームに下位ランクのリーグ戦に出場していただく場合があります。

9. 一般的な注意

タイムアウト制は採用しません(タイムアウトは取れません)

審判は双方のチームから出してお願いします。

ユニフォームは同一チーム内では統一すべきとは思われますが、当分の間統一の必要はありません。

ゼッケンは名前と荒川区卓球連盟登録のチーム名を明記してあるものを背中に着用することとします。着用するとは、団体戦開始の整列時から出場する各個人戦の終了時までの着用を意味します。明記とは卓球台を挟んで、開始前の整列の状態で見れば相手チームから文字が十分に読み取れる状態とします。なお、ゼッケンの着用に協力が得られないときには審判長の判断でそのチームを棄権負けにする場合があります。

審判長が不在の場合、「審判長」を「副審判長」あるいは「審判長が指名する者」と読み替えます。

この規定にない部分についてはその大会開催時点での日本卓球協会制定の日本卓球ルールに従うものとします。